



輝く街づくり

市政に新たな種をまき、
芽を育てよりよい街にしよう!

VOL. 62

たけちゃん通信

和光市議会議員
議会運営委員会委員長

吉田たけし



令和7年和光市議会12月定例会

令和7年和光市議会12月定例会(議会)が、11月27日(木)より会期22日間の日程で開会し12月18日(木)に閉会致しました。今議会には議案第76号から議案第85号、最終日に議案第86号が追加され11議案が上程されました。また、令和7年和光市議会9月定例会(予算決算常任委員会)において、閉会中の継続審議となっていた、議案第71号令和6年度埼玉県和光市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について文教厚生分科会で審議されました。

議案第71号 令和6年度埼玉県和光市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について

採決は可否同数のため地方自治法第116条に基づき議長裁決で不認定となりました。

介護保険の支払い月の期ずれについては、令和7年3月定例会の補正予算から始まり、市の説明に、未だに納得できない部分があります。3月定例会の補正予算では、議会としては、期ずれの状態の是正を先送りすることで、市民負担が増えることになるので、一般会計からの一時立替の補正予算を議決しました。10期の介護保険料で返還する、しない、の方針変更の説明は不十分であります。

9月定例会では、市の見解は是正をした今の状況は問題ないとのことで、一般質問でも多くの議員から期ずれについての質問があり、論点が複雑でこの会期中では整理できないので、引き続き調査や議論の深まりが必要で、また、決算認定の判断をしたことで議会の一定の判断が示されたことになり、事実を明確にする動きが止まると考え、継続審査となり、本定例会で再度、審査されました。委員長報告は認定でしたが、今回も結論に至ることがなく、時間が経過しすぎ、当時の経緯も不明であります。これ以上の時間をかけても難しいと考えました。

期ずれ問題の経緯

- ・20年間に及ぶ不適正な会計処理(保険給付費の支払い月の期ずれ)が、職員の内部告発的な指摘で明らかになりました。
 - ・平成16年度に保険給付費が「11ヶ月分」の支出にとどまり、当該年度で支払うべき「3月支払い分」を次年度予算で支出するサイクルが約「20年」継続しました。
- 以下の2点がはつきりしないことから不認定としました。

- ①説明責任の所在と市民合意形成の枠組みが未整備のまま、期ずれの目的・影響・意思決定経緯の説明範囲、ならびに65歳以上に約3億円を保険料で負担させる可能性の是非・基準が不透明である。特に、市民説明会の設計(説明主体、説明内容、期限、資料の内訳・財務分析・負担影響・代替案)を具体化できておらず、合意形成が遅延し政策決定が滞るリスクが高い。
- ②一般会計からの2億1000万円繰入れの妥当性評価基準(過去の過剰繰入れとの通算、遡及不可の扱い、公平性原則)が未確立で、今後の繰入れ依存抑制策(上限、発動条件、モニタリング指標、基金再構築方針)も不在のため、基金枯渇に伴う短期的な資金繰り悪化と保険料増・事業縮減の即時化、さらに合意形成の遅延による意思決定停滞という複合リスクが顕在化している。

市民に対して最終的に結論が出たときには、市民説明会を開催することが重要です。

今回の委員会で担当課は、これまでの特別会計の不適切な事務処理を生んでしまったことを市民に説明する必要があるとしています。しかし、まだ市民への説明会が確約されていないため、認定はできませんでした。市民説明会を開催し、丁寧な説明をすることを強く要望しました。

議案第76号 自動運転サービスに関する大型EV自動運転バス購入契約の締結について

今回購入する大型EVバスは大阪万博で使用しているバスで、中国のBYD社の車両で、現在の大型EVバスはこの車種だけで、大型EV自動運転バス購入後の調律業務を行うシステム業者が所有しているバスであると昨年11月の全員協議会で説明がありました。予算計上するための見積りも、このバスを所有するシステム業者のものです。

9月定例会の説明では事業者に公平な参入機会を確保するために、サウンディング調査をし、仕様を固めて、公募型のプロポーザルによる事業者選定を行うとの説明もありましたが、募集要項の交付・配布が令和7年9月19日、質問書提出期限令和7年9月25日、参加申込書及び企画提案書提出期限令和7年10月8日正午までとタイトなスケジュールで、応募事業者はシステム事業者の1社でした。また、審査方法の中には、評価点の合計点が満点の6割に満たない場合は、優先交渉権者として特定しないものとします。とありました。企画提案評価基準合計点は100点で、選定結果点数(合計点532)(平均点76.0)でした。

9月定例会の自動運転サービス導入に関わる増額補正では、3期社会実証を実施するための経費で、運営支援業務に係る費用と大型EVバスを導入する費用、自動運転の車両調律業務に関する費用、運行事業者に対する交付金が主な費用となり、総額1億3,223万8,000円の補正予算が承認されています。(バス購入は9,680万円)

また、9月定例会では、事業者の公平な参入機会を確保するために、サウンディング調査をし、仕様を固めて、公募型のプロポーザルによる事業者選定を行うとの説明があり、補正予算の出し方にも疑問を持っていましたが、プロポーザルは、価格の面と技術提案があり、市にとってはメリットがあると認識したため、プロポーザルの中でしっかりと判断をしていただくことを要望して補正予算に賛成しました。しかし、サウンディング調査では、優れた提案でも、バス購入は9,680万円を超えないこととなっていたことからプロポーザルに応募した事業者は、このバスを所有するシステム業者1社だけでした。形式だけの公募型プロポーザルだったと言わざるを得ません。このようなことから本議案に対して反対しました。

◎この議案に対する判断すべきポイントはあくまで財産購入に対する議案で「事業の有益性」と「事業者選定の透明性・公平性」を議論する議案であります。

和光高校閉校後の跡地利用について

- 質問** 和光高校は1972年に開校し、2026年4月1日に埼玉県立和光国際高等学校と統合され、新校は現在の和光国際高校に設置されます。既に和光高校は令和5年度入試から募集が停止されており、現在は3年生のみが在籍しています。そのため、今年の和光祭は和光高校の最後の文化祭となりました。和光市商工会青年部が今年で60周年ということで、和光祭と一緒に盛り上げようと「60周年記念祭」として共催しました。花火も打ち上げられ最後の文化祭が盛大に開催されました。現在の状況と今後の計画について伺う。
- 答弁** 和光高校の跡地利用につきましては、これまで、政策会議において全庁的に照会を行うなど、当該土地にどのような公共施設が必要となるのか、慎重に検討を進めているところです。今後につきましては、和光高校の跡地利用の是非も含めて、市としての方向性が固まり次第、然るべき時期に、議会に対し、説明・報告を行う予定です。

閉校後の活用について

- 1** 市内の小中学校における全体の児童生徒数は、今後、減少していくと想定しております。ただし、今後の人口動態や地域の開発状況等によっては、予測を上回る児童・生徒数の増加が生じる可能性もあるため、引き続き注意深く状況を注視してまいります。との答弁もありました。私は一番に中学校活用として確保して頂きたいと考えています。少し調査しましたが、現在の校舎は少し改装することで中学校として活用できるようです。体育館についても国道254号和光バイパスのルートに当たるため、区画整理での移転補償で再築できるのではと思います。大和中学校のマンモス化を解消し、これからの和光市を担っていく生徒がのびのびとした環境の下での学びとなるように、是非中学校設置を念頭に考えて頂くことを要望します。
- 2** 介護福祉施設用地としての活用も考えられます。当市は現在、東部区画整理事業の影響で地下が高騰しています。このようなことから介護福祉施設開設に事業者が設置しにくくなっていると思います。福祉の里、ナーンシングホーム和光のような委託での運営ができるようにすることが重要です。今後高齢化が急速に進んでいくと考えられます。
- 3** 道の駅構想が頓挫しました。跡地は国道254号和光バイパス沿いとなります。また、牛王山遺跡斜面に区画整理によって公園の計画となっています。そのようなことから、道の駅用地としても活用することで、北側の活性化にもつながると考えます。以上のことから、和光高校跡地は絶対に和光市で取得し活用するようにして下さい。私の要望は中学校設置です。

物価高騰対応について

- 質問** 国では今年度の補正予算案の審議が終わり、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金及び米券などの支援策が行われますが、交付金の使い方について伺う。
- 答弁** 物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金等につきましては、交付の内示額、これまでの実績、国の推奨メニューや近隣自治体の状況など総合的に勘案されて決定されるものと承知しております。部所管の行政課題を鑑みて提案してまいります。
- 質問** 今回の交付金は、年明け早々に市民の皆様が実感していただける「即効性」「スピード感」が重要で、また、事務経費の最小化が重要です。市民に最大限還元できる形としては、水道基本料金などの減免だと考えます。水道料金減免についてのお考えを伺う。
- 答弁** そういう手法は一つの手段として考えられると思います。市としてどのような形が一番いいかを考えた上で、庁内で検討していきたいと思っています。
- コメント** 水道は誰もが使うものであり、負担が軽減されれば、その分を食料品購入などに充てることが出来ます。

第三小学校建替え計画について

- 質問** 令和7年5月12日から令和7年5月14日までの期間で、民間事業者と対話方式でサウンディング調査を実施しました。和光市立第三小学校は、一番古い校舎が1960年の竣工から65年が経過し、老朽化が進行しております。第2次和光市公共施設マネジメント実行計画においては、和光市駅から近いという立地をいかし、民間資金を活用した官民一体複合化（PPP/PFI）による建て替えを検討することで、財政負担を少なくし、早期の建て替えを目指すこととしています。建替え等にあたっては、多様化、複雑化する行政ニーズに対応するために、市単独での整備や民間活力を活用した整備など、様々な手法が考えられ、必要な情報を整理しながら、検討を進めていると思います。計画について伺います。
- 答弁** 和光市小中学校個別施設計画を策定し、その中の整備スケジュールイメージとして、令和8年から工事着手と設定いたしました。その後、令和4年3月に策定した第2次和光市公共施設マネジメント実行計画において、令和9年度以降の第3次実行計画期間に実施する方向となりました。現在、第2次実行計画期間においては、まず借地の解消を図り、他自治体の事例研究、内閣府のPPP専門家への相談、サウンディング型市場調査の実施等により情報収集を行い、施設の複合化や敷地利活用等を含め、建て替えの方向性について検討を進めている状況です。
- コメント** 和光市駅から近いという立地をいかし、民間資金を活用した官民一体複合化（PPP/PFI）による建て替えを検討することで、財政負担を少なくし、早期の建て替えを目指すこととしています。和光市駅に近いということで、私も複合化がいいと思っています。是非駅近なので、いろいろな複合化を目指してよりよい形にしていっていただくように要望しました。

市政に対して関心を持ち、発信していくことが大切です。

税金の無駄遣いがないよう、皆さん一緒に市政を見守っていきましょう。

市政に対するご意見・ご要望、またなにかの時には、なんでもご遠慮なくご相談ください。皆さんと一緒に考えて行きます。



吉田たけし後援会

会長 柳下正一

この会は、吉田たけしさんを中心に明るく、楽しく元気なまちづくりを目的に、会員相互の研修と親睦を行なっています。入会無料です。入会いただける方は下記にご記入の上、この面をFAXしていただくか、吉田たけしオフィシャルサイトより必要事項を記入の上、送信してください。

吉田たけしの今を伝える。

日々の活動をSNSを使って配信しております。

FAXの方はこちら [ご記入上そのままFAXしてください。](#)

インターネットの方はこちら

お名前

ご住所

ご連絡先電話番号

携帯

メールアドレス

PC、スマートフォンからも可能です。



<http://takechan-yoshida.jp/new/kouenkai.html>



ホームページ



ブログ



Facebook



X